

ごあいさつ

会長 堀川 馨



1999年2月に当協会が設立されてはや5年目を迎えました。それ以来、当協会は福井県との友好協定締結先であるハールブルク郡・ヴィンゼン(ルーエ)市をはじめ、ドイツから様々な訪問団を受け入れてまいりました。

本年に入ってから、1月には県の委託を受けてドイツからフローリストとベーカリーのマイスターの皆さんを受け入れ、会員の皆さんとも交流を深めていただいたほか、講演をいただいたり、当協会主催のレセプションにもお越しいただき、本県の各界各層の方々と交流を深めていただきました。

また、2月には、ギムナジウム・ヴィンゼン、ヴィンゼン専門職業学校の皆さんとともに、ボード・ベッケドルフ・ヴィンゼン独日協会会長が福井県を訪問され、歓迎レセプション等を通じて会員の皆さんと交流を深めていただくことができました。ベッケドルフ会長の来県は7度目になりますが、一昨年3月にめでたくヴィンゼン市長に当選され、市長としての訪日はこれがはじめてです。市長としての重責を果たされながら、ヴィンゼン独日協会会長として福井県との友好交流の進展のために多大のご尽力をいただいているベッケドルフ氏と改めて忌憚のないお話をすることができ、たいへん嬉しく思いますとともに、これから

の福井県とヴィンゼン(ルーエ)市との交流進展に確かな手応えを感じることができました。

現在、当協会では、ドイツ語初級講座の開催、国際交流イベントへの出展、インターネットによる情報提供などを通じて日独間の交流推進活動を行っております。こうした活動を通して多くの方に当協会の活動の趣旨にご理解をいただくことができ、当協会会員も、設立当初は130名でしたが、現在では約170名を数え、交流の輪が着実に広がっていることを嬉しく思います。

平成15年度も、ドイツからお客様をお迎えし、会員の方々とのふれあいの場を設けますとともに、福井県におけるドイツとの民間交流を盛んにしていきたいと考えておりますので、皆様のさらなるご協力と参加をお願いいたします。



ベッケドルフ市長一行歓迎レセプションにて

ヴィンゼン市親善訪日団来県

団員：マンフレート・ヒラー団長(ヴィンゼン独日協会事務局長)ほか20名

日程：平成14年10月3日～7日

昨年10月に、「国際青年の翼」ドイツ・オランダコース参加者のホームステイ受入先家族を中心に、ヴィンゼン(ルーエ)市から親善訪日団の皆さんが来県し、知事表敬のほか、ホームステイ、大本山永平寺視察、今立町での紙漉き体験などを通じて交流を深められました。

当協会は、10月4日(金)に、織協ビルで県との共催で一行の歓迎レセプションを開催し、栗田知事、西川副知事(当時)をはじめ、これまでの「国際青年の船」、「国際青年の翼」の参加者の皆さんにもご出席いただき



ヴィンゼン市親善訪日団による合唱の披露

ました。ドイツの皆さんからは素晴らしい合唱の披露をいただいたほか、お互いに感動の再会を果たす場面もあつたりと、福井県とヴィンゼン市との交流がいかに長期にわたって深い友情で結ばれてきたかを改めて認識するよい機会となりました。



ドイツ語初級講座の開催

平成14年8月から平成15年1月まで6回にわたり、村田幸子さんを講師として、県国際交流協会において、初級レベルのドイツ語講座を開催しました。

アルファベットの発音からショッピングの際の会話まで、ドイツ語ははじめてという人でも分かりやすく楽しい内容の講座でした。





ベーカリー・マイスターによる実演・講演会

1月に、本県と友好協定を締結しているハールブルク郡・ヴィンゼン(ルーエ)市から、フローリスト・マイスター2名、ベーカリー・マイスター2名が交流パイオニアとして来県されました。当協会では、県からの委託を受け、県内の各所で各専門分野の関係者を対象とし、パン製造とフラワーアレンジメントの実演・講演会を実施しましたところ、パン製造の実演・講演会では延べ120名以上、フラワーアレンジメントの実演・講演会では延べ200名以上の参加者にお越しいただき、大変盛況のうちに終了することができました。また、余暇を利用して県立恐竜博物館、大本山永平寺などを視察していただくとともに、1月10日(金)には、県庁で知事表敬、また、夕方からは当協会会員の方を対象とした講演会と夕食会を県国際交流会館で開催いたしました。マイスターの皆さんも、餅つき体験や鯖江市のドイツ語教室の生徒たちとの交流を楽しむなど、「二週間の滞在は短すぎた」と、今回の滞在に大変満足された様子でした。こうした交流事業の成果を発展させ、当協会としても、今後とも福井県とヴィンゼン市との交流が県内各界の様々な分野に浸透していくよう引き続き努力していきたいと思っております。

出来上がったパン



Topics

ドイツ交流パイオニア来県

団員：ヴァーナー・カットナー(ヴィンゼン独日協会役員)、ハンス・ミヒャエル・ブライチファー(フローリスト・マイスター)、ハルトムート・コーアス(ベーカリー・マイスター)、マルチン・レーパー(フローリスト・マイスター)、フランク・ゼートビア(ベーカリー・マイスター)

日程：平成15年1月9日～15日



フローリスト・マイスターによる実演・講演会



出来上がった花

マイスター来日について

ヴァーナー・カットナー (Werner Kattner)
ヴィンゼン独日協会役員

福井県とハールブルク郡およびヴィンゼン(ルーエ)市との友好協定に基づき、両国の経済的な結びつきに活力を与えるという課題を担い、私は今回訪日しました。

昨年、私は家具職マイスター2名および暖房設備マイスター2名とともに福井に1週間滞在しました。マイスターたちは今なおこの時のことを懐かしく思い出し、福井からも同業者を迎えることができればと希望しております。

今年は1月9日から1月15日まで再びマイスター4名とともに福井を訪問しました。フローリスト(花屋)マイスター2名とベーカリー(パン屋)マイスター2名です。私は、福井の皆さんがヴィンゼン市およびハールブルク郡からのマイスターたちの実演に多大な関心を寄せていただいたことに

マイスターの方たちを迎えて

村田 幸子（県日独友好親善協会会員、交流パイオニア
受入事業での通訳）

昨年にひきつづき、本年も4名のマイスターを迎え、すばらしい技と知識を見聞することができました。2名のベーカリー(パン)マイスターは貴重なレシピを惜しげもなく披露してくださり、両手それぞれでこねて、左右まったく同じ大きさの球型のパン種をつくられたのにはさすが、とうならされました。今回、フリータイムで餅つきを体験されましたが、マイスターのまるめた餅の出来栄の良さは、そこで指導していた人から、まるめ方を教えてと言われるほどだったことからもおわかりでしょう。(餅のお味は残念ながらお口に合ったとまではいかなかったようです。そもそも、「味の無い」食べ物は苦手なドイツ人が多いようです。)

さて、このほかにも2名のフラワーアレンジメント(花)のマイスターが来られました。豊富な情報の中、参加対象に合わせて、いろいろな側面からの異なる話がなされ、通訳している私も大いに楽しませていただきました。中でも、わかりやすくまた印象深かったお話として、ドイツでは色々な機会に、時にはさりげなくお花が贈られ、花が気持ちを代弁してくれるということです。ご主人が、奥さんのおいしいお料理や日々の家事への感謝をこめてあげる花束、会社の上司が少々厳しすぎたかなと思った時に秘書にあげる花束、おわびの気持ちや、家族をなくした友人をなぐさめる花束などなど、実にさまざまな具体例があげられました。そしてマイスター達は、その都度、贈り主の気持ちに合ったお花を選び、目的にあったベストの花束を作るとの



こと。創造性と顧客へのアドバイスがとても大切にされているわけですね。

これまで、ドイツでのお葬式の花は一般的に白色と聞いていましたが、故人の生前の話を聞いて、イメージにあったお花を選んで花飾りをつくることを聞き、きめ細かい心遣いに感心しました。庭園のようなドイツの墓場に植える花専門の仕事は日本では無いものでしょうし、また、ガーデナー(庭師)として、自分たちが栽培し育てた花への自信、お店で扱う花の管理・技術への自信が、マイスターの店のパンフレットに印刷されている「私たちは、お買いになった花束の美しさを100時間保証します。」の言葉にあらわされていると思います。

多くのドイツ人が、自宅を1年中美しい花で飾りたいと情熱を燃やすことが、今回のマイスターの講演やスライドで垣間見ることができたと思います。スライドの中で、大型の花屋さんが敷地内の一角につくった「日本庭園のデモンストレーション」が我々日本人には、あまりにも日本的イメージからかけ離れたものだったのには笑いが出ましたが、ここにあらわされるように、初めて日本を訪れたマイスターには、日本人にとって何が珍しく、何が当たり前のことかがわからずに資料を集められ、苦勞されたことと思います。

最後に、フラワーのマイスターが、「是非もう一度日本(福井)に来て、自分たちに無いものや違うものを確かめたい。」と言われたことが強く心に残りました。講演に来てくださった皆さんの心には、何が残りましたでしょうか？

福井国際フェスティバル2002への協力

平成14年11月10日(日)に県国際交流会館で国際交流・協力をテーマに開催された福井国際フェスティバルに当協会も参加協力しました。当日、チラシを配るとともに、ドイツのワインやお菓子を提供して、ドイツ文化への理解に努めました。



大変感動しました。この事業を実行に移せたことを嬉しく思っております。

昨年と同様、福井で受けたおもてなしには本当に感動しました。今回訪問したマイスターたちは、これほど打ち解けた、心からのおもてなしを予想していなかったと何度も私に断言しております。また、彼らの何人かは、日本および福井

を再び訪れたいとの希望を伝えてきております。このような体験交流が今後とも促進され、再び福井を訪問できることを心から期待しております。

最後に、今回の交流の成功にご協力くださったすべての方にお礼申し上げたいと思います。特に栗田知事のご尽力がなければ、こうした交流は実現不可能だったでしょう。

福井市や鯖江市の友人の皆さんと再会できますことを心待ちにしております。

ベッケドルフ・ヴィンゼン 独日協会会長一行来県 (ヴィンゼン市長)

団員：ボード・ベッケドルフ・ヴィンゼン独日協会会長、マルクス・ヒラー（ヴィンゼン専門職業学校生徒）、クラウス・ゲルナート（ギムナジウム・ヴィンゼン生徒）、クリスチアン・ポスト（ギムナジウム・ヴィンゼン生徒）、ナディーネ・シュナイダー（ヴィンゼン専門職業学校生徒）

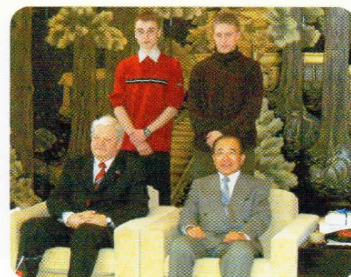
日程：2月16日～23日



レセプションにて

2月に、本県と友好協定を締結しているヴィンゼン(ルーエ)市から、ボード・ベッケドルフ独日協会会長(ヴィンゼン市長)が来県されました。ベッケドルフ会長は、県教育庁の高等学校生徒交流事業のため、ギムナジウム・ヴィンゼン生徒2名およびヴィンゼン職業専門学校生徒2名を引率し、それぞれの友好交流先である勝山高校と福井商業高校との間で交流活動を行いました。また、2月17日(月)には、県庁で知事表敬を行うとともに、県との間で定期協議を行い、今後の交流活動や友好協定5周年記念事業などについて意見交換を行いました。

当協会は、2月21日(金)に、県国際交流会館で県との共催で一行の歓迎レセプションを開催し、栗田知事、西藤教育長をはじめ、生徒のホームステイ先のご家族にもご出席いただき、終始なごやかな雰囲気の中で、当初からの会員の皆さんにはベッケドルフ会長と旧交を温めていただくとともに、新規会員やゲストの方にもドイツの皆さんを含めて新たに交流を深めていただくことができました。ベッケドルフ会長は、今年1月に新たにハールブルク郡長に就任されたアクセル・ゲダシュコ郡長からの、福井県との交流を一層進めていきたいという熱いメッセージを読み上げられました。



栗田知事表敬

News



アクセル・ゲダシュコ氏が ハールブルク郡の新郡長に選出

ヘーゼマン助役のご逝去に伴い、ニーダーザクセン州において法改正が行われ、それまでの名誉職的な郡長と実質的な首席行政官である助役のポストの並立が廃止され、郡長に一本化されて新たに選出されることになりました。新法に基づく郡長の選挙は本年1月12日に実施され、キリスト教民主同盟のアクセル・ゲダシュコ氏(43歳)が65.8%の得票という圧倒的勝利で新郡長に選出されました。

ゲダシュコ郡長は、ベッケドルフ・ヴィンゼン市長と同じ政党に属し、個人的にも懇意の間柄であることから、同市長との関係を通じて福井県との友好交流の促進にも強い関心を示しておられ、同市長が2月に来県された際にも、「いずれ福井県を訪問する機会を得て、個人的にも友好関係を促進したい」とのメッセージを寄せられました。同郡長の就任により、今後さらに福井県とハールブルク郡との交流が進むことを期待しますとともに、同郡長の早期来県を期待したいと思います。

ヘーゼマン・ハールブルク郡助役 ご逝去

昨年7月17日に、ハンス・ボード・ヘーゼマン・ハールブルク郡助役が逝去されました。59歳でした。ヘーゼマン助役は、20年以上にわたりハールブルク郡の公職に就かれ、1994年からは助役として郡行政に多大の貢献をしてこられました。昨年3月には、アーレンス郡長(当時)、シュレーダー・ヴィンゼン市長(当時)、ボーデ・ヴィンゼン市助役、ベッケドルフ独日協会会長、レンツ同副会長とともに来県され、当協会主催のレセプションにもお越しいただき、会員の皆様と親睦を深められました。ここに謹んで深く哀悼の意を表しますとともに、心からご冥福をお祈り申し上げます。



発行：福井県日独友好親善協会
〒910-8580 福井市大手3丁目17-1
福井県県民生活部国際課内
TEL：0776-20-0294
FAX：0776-22-1702
ホームページ：<http://www2.ocn.ne.jp/~german/>